

# 地方都市の交通問題を解決するためには

なべしき C1251337 佐藤晶那

## A.他チームの発表を聞いて

自分たちのチームにない解決策を提案し、参考に n ったのは 30 班です。

30 班は効率の悪い運行体制をしており、予約制、オンデマンド型のバスの導入が参考になった。

## B.地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

これまでの授業を通して、地方都市における交通問題は単に移動手段がないという問題ではなく人口減少や高齢化、都市構造、環境などたくさんの要因が重なって生まれていると学んだ。自チームの提案では公共交通機関の利用料金を安くする、公共交通の数を増やし使える範囲も広くするなど考えたが、30 班の意見を見たことで予約・オンデマンド化することを知った。

30 班の発表では、地方都市における公共交通の最大の課題として人手不足が挙げられており、その背景として長時間労働や不規則勤務、賃金や待遇への不満、運転手の高齢化、若者の職業意欲の低下などが整理されていた。また、公共交通の利用者減少による収益悪化や AI や自動運転によって将来なくなる仕事というイメージが交通業界への不安を強めている点も印象的であった。これらの要因が重なり、地方では路線の減便や廃止が進み、移動弱者が増加しているという現状がある。

30 班はこの課題に対して少ない人員でも公共交通の利便性を維持・向上させるための解決策として、オンデマンド型バスの導入や AI データを活用した運行ルート最適化、キャッシュレス決済の導入などを提案していた。これらは運転手の負担軽減や業務効率化につながり、結果として若者の職業意欲向上についても人を完全に不要にするのではなく AI と人間が役割分担をするということで安全性と効率性を両立させるという視点が示されていることは重要である。

自チームの提案では公共交通の利便性向上を通じて地域住民の移動手段を確保することを重視していたが 30 班の発表を含めるとその実現には人が働き続けられる運行体制づくりが不可欠であることに気づいた。どれだけ便利な交通システムを整備しても、それを支える人材がなければ継続は難しい。そのため柔軟な働き方の導入や公的視点の広がりにより交通業

界を人間が必要とされる仕事として再評価することが重要だと考える。

以上により、地方都市の交通問題を総合的に解決するためには、オンデマンド交通問題や AI 技術の活用による効率化と同時に、運転手の労働環境改善や人事確保に取り組む必要がある。A チームの提案と自チームの考え方を組み合わせることで少ない人員でも持続可能で、誰もが安心して利用できる公共交通の実現につながると考えた。